



健康社会学研究会

ニューズレター No.98

発行：健康社会学研究会

事務局：〒157-8565 東京都世田谷区北烏山 8-19-1 日本女子体育大学 助友裕子研究室内

(担当：助友裕子、細川佳能)

TEL/FAX 03-3300-3216 E-mail: healpro.info@gmail.com

ニューズレター NO.98/2021年12月

第62回 健康社会学セミナーのご案内（オンライン）

<第62回 健康社会学セミナー> テーマ：「コロナ禍の分野間協力」

【趣旨】：新型コロナウイルス感染症の感染者数は今は落ち着きを見せているものの、社会への影響はまだまだ大きい。一方で、医療現場以外の声を聞くことは相対的に少ない。そこで、社会科学的な側面からそれぞれの場で問題とされていることや必要と思う物事などについて語るとともに、他分野に協力してほしいことや他分野へ協力を提供できることなどがあれば伝える場としたい。

【内容】

1. 実践報告（リレー講演）

- ・行政（保健部門） 町田市保健所 保健総務課 田村 光平 先生
- ・行政（歯科部門） 江戸川区健康部健康サービス課 長 優子 先生
- ・行政（非保健部門） 白井市役所市民活動支援課 松岡 正純 先生
- ・福祉 中野区社会福祉協議会経営管理課 小山 奈美 先生
- ・学校 福島県田村市立都路中学校 相澤 健生 先生

2. 分野ごとのグループワーク

3. 各グループからの発表と全体討議

【日時】：2022年1月8日（土） 14時00分～16時30分

【方法】：オンライン会議システム Zoom

※当日の参加 URL は、申し込みいただいた方に、別メールにてお知らせいたします。

【参加費】：[会員] 無料、[非会員] 1,000円（但し、学部生無料）

【申し込み】：下記 Google フォームよりご登録ください。

（登録時に、グループワークで参加を希望される分野をお選びください。）

<https://forms.gle/KzwKmNbP7xcBoaSo8>

※申込締切：2022年1月5日（水）

皆様のご参加心よりお待ちしております！



Google フォーム

第133回 定例会のご案内（オンライン）

<第133回定例会>

テーマ／話題提供者：未定

【日時】：2022年3月12日（土）15:30～17:30

【方法】：オンライン会議システム Zoom

【参加費】：[会員] 無料、[非会員] 500円（但し、学部生無料）

【申し込み】：詳細は後日ご案内いたします。

第132回 定例会報告

<第132回定例会>

テーマ：「児相で働いてみたら、衝撃でした。

～ヘルスプロモーション風に考えてみた～」

話題提供者：鈴木 了栄 先生（北海道室蘭児童相談所）

【日時】：2021年11月13日（土）15:30～17:30

【方法】：オンライン会議システム Zoom

秋の深まりを感じる2021年11月13日（土）、第132回定例会がオンラインで開催されました。北海道、新潟、福岡など各地から、演者を含む総勢29名の参加がありました。

本定例会では、北海道室蘭児童相談所の鈴木了栄先生から、具体的にご自身の経験に基づき、虐待が疑われる事例への対応のプロセスを丁寧にご報告いただきました。ヘルスプロモーション活動プロセスワークシートを用いた考察からは、児童相談所や市町村内部で情報を集約できる組織体制を整えることはもちろん、子どもや保護者を取り巻く多分野の関係者と早い段階から連携を図ることなど、環境づくりの重要性が強調されていました。

児童相談所職員の業務内容は、対象者の個別性の高さから生じる課題も多様であるため、それらの解決に向けて若手職員が集うネットワークを立ち上げたことなどを伺い、今後のさらなる発展や可能性に参加者の注目が集まる定例会となりました。

後半のディスカッションでは、

- ・対象者のエンパワメント過程や潜在的なパートナーの存在
- ・現場職員が抱く具体的な悩みやそれらの解決策アイデア
- ・児童福祉に関する将来展望

に焦点をあてて、参加者とのディスカッションが行われました。

個別性の高い対応が求められる職業であるがゆえに、ヘルスプロモーションの概念にぴったりと当てはめることには難しさを感じつつも、家庭と学校、地域社会の人々や関係機関等が連携し、適切な役割分担を行いながら、子どもの心身の健康づくりを推進することの重要性を再認識する議論となりました。

その後の懇親会でも、定例会での議論をより深掘りするように、他分野の視点からの発言があり、密度の濃い時間を過ごすことができました。本研究会の良さは、このように分野が異なる人同士が相互的な視点を持ち寄って、それぞれが抱える悩みや課題に寄り添えるところにあるような気がします。

今後の研究会活動においても、多分野連携を意識したディスカッションにより、参加者間で相乗効果が得られることを期待しております。

（文責：細川 佳能）